

花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2024.SPRING



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No. **48**

特集

大学教育と研究の さらなる飛躍へ ～創立から75年、法人化から20年の現在～

授業紹介 - 教育の現場 -

Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

新大メモリアル写真館 あのと看、あの場所

基金関係のお知らせ

Campus Information



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY



新潟大学は旧制新潟医科大学と旧制新潟高校を核に、
1949年5月に国立学校設置法公布に基づいて
新制の国立大学として設置され、2024年で75周年を迎えた。
直近の25年間で最も大きな節目となったのは2004年の国立大学法人化だ。
新潟大学では、法人化を機に人文社会・教育科学系(当時)、自然科学系、医歯学系からなる
教育研究院を設置し、学部・研究科の教育活動の高度化と研究活動の飛躍的な発展を図ってきた。
創立から75年、法人化から20年の節目の年に、これまでの歩みを振り返る。



新潟大学 学長 牛木辰男

**教育研究院の
設置により
「教教分離」へ**

新潟大学は2004(平成16)
年4月の国立大学法人化に伴い、
新しく教育研究院を設置した。
これは法人化前の学部・研究科
に所属していた教員を「人文社
会・教育科学系(当時)」「自然
科学系」「医歯学系」のいずれか
の学系の所属とし、「医歯学総合
病院」「脳研究所」等とともに、
教員の所属組織であると同時に、

研究を行う組織として位置付け
るものだった。学生が所属する学
部及び研究科(大学院)へは、教
育研究院から教員が派遣され、
主として学生・大学院生に対し
教育を行うこととなった。すなわ
ち教員組織と教育組織を切り離
した「教教分離」体制への移行
であった。

そして現在、新潟大学将来ビ
ジョン2030に掲げた、「地域
社会の交流拠点の形成」「社会
とつながった学修者本位の教育シ
ステムの構築」「全学の知を結集
した新たな研究フラッグシップの
形成」を実現するため、3学系
の有機的な連携が一層期待されて
いる。牛木学長と教育研究院の
柴田人文社会科学系長、鈴木自
然科学系長、佐藤医歯学系長に、
これまでの道のりを振り返るとと
もに、創立100年に向けた将来
像を語ってもらった。

3つの教育研究院 これまでの歩み

教育研究院制度により、こ

特集 大学教育と研究のさらなる飛躍へ ～創立から75年、法人化から20年の現在～

2024.SPRING No.48

CONTENTS

03 特集

大学教育と研究のさらなる飛躍へ

～創立から75年、法人化から20年の現在～

08

授業紹介 -教育の現場-

09

Enjoy! 学生ライフ

10

注目される研究報告

12

教員によるコラム“知見と生活のあいだ”

13

新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所

14

基金関係のお知らせ

16

Campus Information



Cover Photo

記念フラッグが設置され、創立75周年ムードに包まれる
五十嵐キャンパス

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章の
モチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章
は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学
名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

六花

題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学
部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。
現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウント

f @niigata.univ
X @Niigata_Univ_O
i @niigata_university

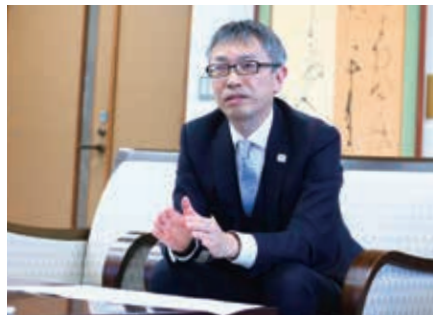


自然科学系長 鈴木敏夫

最先端技術を創出し 開発力と人材育成を 担う機関を目指す

鈴木・その成果の1つとして研究統括機構のコア・ステーションから全学共同教育研究組織化したビッグデータアクティベーション研究センターが挙げられると思います。新潟大学におけるビッグデータ、AI技術の分野融合研究、人材育成、産学地域連携の推進拠点として、様々な役割を果たしています。

激動する社会に対応できる 医療人材と世界に誇れる 医歯学研究を発信する



医歯学系長 佐藤 昇



1949年の新潟大学開学式の様子

から従来の枠を超えた知識や価値を創造し、社会実装することを目指しています。

鈴木・全学的には他にも、若手研究者の括採用による育成（スイングバイ・プログラム）や、異分野融合研究を促進するイベントの開催などに力を入れています。

学系の存在が 時代に即した 教育開発も促す

鈴木・自然科学系では、各学部等で情報交換をしながら、今求められる人材のための教育プログラムを開発しています。2010年度に大学院自然科学研究科、2017年度に理・工・農学部が同時に改組を行い、教育プログラムを見直しました。他にも学系全体でグローバル教育を推進するための組織として、自然科学研究科に教育研究高度化センターを設置しました。その部門として研究科および各学部国際交流担当副学部長をメンバーとした国際化推進部門において外国

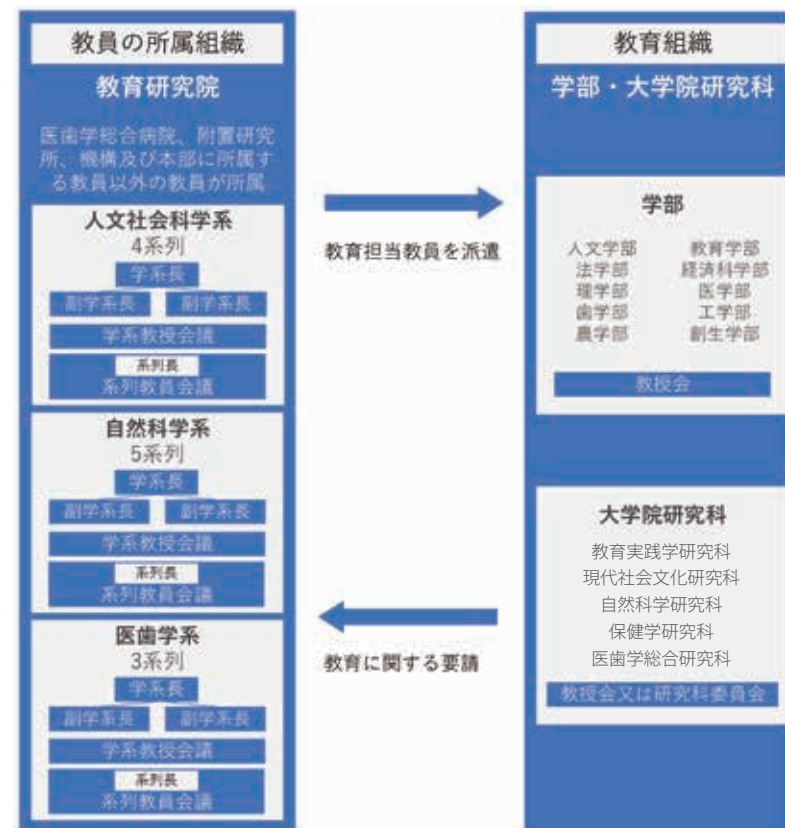
現在の教育研究院の構成

(2024年5月1日現在)

人文社会科学系 231名
人文科学系列 法学系列 経済学系列 教育学系列
自然科学系 250名
生産デザイン工学系列 情報電子工学系列 数理物質科学系列
地球・生物科学系列 農学系列
医歯学系 281名
医学系列 歯学系列 保健学系列

各学系の下には系列が置かれており、教員は専門分野に応じて、その構成員となる。

教育研究院と学部・研究科の関係



※コア・ステーション

学部・研究科等の既存の学内組織にとられない大学の教員等のグループが、高度な大学教育プログラムの開発や卓越した研究拠点の形成を目指して行う教育・研究活動を、申請に基づき学長が認定する制度。学系や学部・研究科、研究統括機構等の下に設置される。

アーカイブ研究センターの他、10のグループが認定されています。

鈴木・自然科学系では、2006年度から附置コア・ステーションが設置され、現在9つのコア・ステーションが運営されています。中でも新潟大学・刈羽村先端農業バイオ研究センターは、刈羽村に建設されたサテライト実験施設を核とし、地域農業の振興と環アジアを見据えた農業バイオ教育研究拠点となっています。

佐藤・医歯学系でも学系の特徴を生かし、6つのコア・ステーションを設置しています。2007年に設置された国際口腔保健教育研究センターは、歯学系列の教員に加えて保健学科系列の教員が参画して、世界保健機関（WHO）の協力センターとして口腔保健分野の国際的教育・研究拠点の形成等に取り組んでいます。また、2010年に設置された臓器連関研究センターでは、医学系列と

れまでの学部の枠や分野の境界を超えて、多様な研究活動や組織作り、教員グループ形成が進められてきました。まずは各学系のこれまでの主な取組について教えてください。

柴田・人文社会科学系は、社会の変化に迅速かつ適切に対応し、教育・研究・社会貢献の活動を高度化するために、人事や予算などを部局の枠を超えて柔軟に運用してきました。研究において

は人文社会科学系が中心となり、2018年に全学共同教育研究組織として環東アジア研究センターが設立されました。それが2022年にアジア連携研究センターとして再編され、文化基層研究、現代共生研究、未来創造研究の3つの領域で、分野融合の研究を進めています。また、担当学部の枠にとられずに組織される教員グループであるコア・ステーション（※）としては、地域映像

最先端技術を実社会で 生かしていくために 文系のはたす 役割がある



人文社会科学系長 柴田 透



現在の五十嵐キャンパス



新潟大学パッケージの形成が目標です。時代のニーズに対応しつつも、本来のミッションを確実に継続・発展する体制を目指していきたいと思っています。

柴田・理系、文系という学問の枠を超えて、文理融合や分野融合により、従来と比べてより新しい発想やアプローチにより、学問の新たな展開を行い、それに基づいた教育や社会貢献を行っていくます。新しく登場する技術を、制度や組織に落とし込み、社会に生かしていくためには文系にできるサポートがあると思います。具体的な動きとしては、2023年にELSIセンターが設立され、科学技術の持つ法的・倫理的・社会的課題について研究しています。

牛木・ELSIセンターがある日本の大学はまだまだ少ない。文献研究が新しい価値を生み出すこともまだまだあります。学系を超え、ぜひディスカッションを

行つてほしいと思います。

佐藤・医歯学系では、AIやがんゲノム医療、系列間での共同研究を進展させていきます。各系列が連携の上、健康長寿や医療格差解消による地域活性を担うヘルスケア人材育成、医療系多職種や食の研究者、地域社会を支える幅広い人材との協働・共創などを目指す育成拠点の整備を目指します。

鈴木・社会の経済的発展と高齢化社会、エネルギー問題、食料問題、気候変動など社会的課題の解決を両立させる Society6.0（超スマート社会）の実現に向けて自然科学系分野が果たす役割は大きいと思います。新しい社会を実現するために求められる最先端技術を創出する研究・開発力と人材育成を担う機関として、社会から求められる新潟大学を目指していきます。

柴田・さらなるAIの発達によ



現在の旭町キャンパス(赤門)



り、教育のあり方も大きく変わっていくことになるでしょう。人口減少も予想されるなか、どの年代も対象とした生涯学習の場として、また日本人だけでなく、海外の人々とともに、研究し、教育を進めていきたいです。

牛木・本学の掲げる将来ビジョンを実現する上でも、各学系による取組は非常に重要です。10学部は単独ではなく、3つの学系の中で横断的な分野で社会に対応していくように思いますし、学系の垣根もなくなっていく必要があります。将来ビジョンで掲げた「未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなる」においては、「ライフ医療・福祉」ではなく、人類のすべての営みを指します。人類が幸福になるための革新には3学系の有機的な連携が必要なのです。それが新潟大学の魅力と強みになるのだと思います。

3学系の有機的な連携が 人類の幸福に貢献する 革新を生み出す



1974年、創立25年当時の旭町キャンパス

分野の教員が集まる総合大学だからできる学部でもありますね。

佐藤・医歯学系では、2018年度から医学系列と保健学系列の教員が多職種連携教育を行うなど、教育面でも系列間で連携し社会で活躍できる医療系人材の育成やカリキュラムの検討に取り組んでいます。

牛木・20年前と比較し、学生主体の学部と教員組織の学系を分ける意味が浸透しているように感じますし、分野の境界が消えつつある。時代が変われば新しい学問も出てくる。そこに対応する土壌を作ることができたのではないかと思います。全学的な視野からの教育面では、授業の全学科目化や副専攻制度等の改革の流れから生まれたNICEプログラムの象徴的な内容です。学部の専門分野の学びをベースに、学部を超えた他分野も積極的に学ぶことができるメジャー・マイ

3つの学系を持つ 総合大学としての強みが 新たな価値を生む

—— 続いて各学系の強みや特徴的な研究について教えてください。

佐藤・医歯学系では2020年12月には3系列（医学・歯学・保健学）が協議の上、『医歯学系のビジョン』を策定し、「激動する社会に対応できる医療人を育成し、世界に誇れる医歯学研究を発信する教育研究拠点」をワンフレーズに定めました。また、本学が設置している日本酒学センターにも、医歯学系の各系列から複数名の教員が協力教員として参画し、日本酒学に関わる教育・研究・情報発信・国際交流を柱に活動を展開しています。

柴田・日本酒学センターには人文社会科学系からも参画しています。また、アジア連携研究センターを核に、モンゴル考古学やアニメ・アーカイブ研究、シベリア先住民諸語などの先進的な研究プロジェクトが進行しています。

鈴木・自然科学系においても、農学系の教員が中心となり日本酒学センターと連携して研究を進めています。また、刈羽村先端農業バイオ研究センターでは高温、高CO₂耐性をもつ『新大コ



1974年、創立25年当時の五十嵐キャンパス

新潟大学 100周年の 未来を見据えて

—— 最後に、各学系の将来への展望を聞かせてください。

鈴木・研究においては、ビッグデータ、カーボンニュートラル、量子研究、バイオ研究などの強みとなる分野を強化・発展させ、その研究成果を広く社会に発信していきます。また、その研究成果を社会に還元することを積極的に進めたいと思います。教育においては、部局の枠に捉われないことなく、基盤となる分野を維持しながら新しい分野、融合分野の教育を行う教育プログラムを構築し、新潟の地域社会が求める人材の育成を目指します。

佐藤・新潟県は、医師不足が深刻な問題となっています。医歯学系においては、地域で活躍できる医療系人材（総合診療のマインドを持った医師、コミュニティナース、歯科医師、歯科衛生士、診療放射線技師、臨床検査技師など）を育成し、多様な能力を発揮して地域創生に寄与できるように、医歯学総合病院と県内医療機関の分業・協業体制の構築や、本学の地域医療DXの取組と連携して環境整備を進めていきたいです。それは地域課題を解決するプロジェクトのアウトカムとなりますし、世界的に応用可能な

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん
部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。
このページではそんな青春の1ページをお届けします。



↑部員は選手17人、スタッフ12人。現部員は全員がアメフト未経験者。「大学で新たなことに挑戦したい」「筋肉をつけたい」など、入部の動機は様々だ。

アメリカンフットボール部

主体性のある活動姿勢が重要 組織力とアメフト技術の向上を図る

部の目標は関東アメリカンフットボール3部秋季リーグ戦。卒業生を交えて実戦的な練習を行っている。高宮尚也部長に聞いた。「アメフト部では練習中の自分たちを動画で撮る習慣があり、選手はそれを見て技術や戦術の課題を見つけ、分析するプロセスの中で解決しています。チームや組織の中での役割や、自分の行動が周りにどう影響を与えるのかを客観的に理解する力が身につきます」。チーム運営はス

タッフ部員が担当。ポジションごとのサポート、遠征のバスや宿泊の手配、備品管理、広報などを分担している。また、卒業生との距離の近さもアメフト部の伝統だ。「戦術指導はもちろん、就職活動などのアドバイスもしてもらえます。また、差し入れや金銭面での援助など、様々なサポートをしていただいています。それらに対する感謝の気持ちを勝利という結果で返せるよう、団結して活動しています」

→アメフトはポジションごとに求められる力が異なり、強靱なフィジカルが求められるコンタクトスポーツだ。厳しい練習や筋トレにより精神力が鍛えられ、自信がついていく。



目標は「一戦必勝」
1プレーに全力を込めます

部長
高宮尚也さん
(農学部4年)

新潟大学公式アプリ配信中

在学生、受験生、卒業生向けの情報をコンパクトにまとめ、随時お届けします！ぜひダウンロードください。

App Store
Google Play

成田太一 准教授
Taichi Narita
西方真弓 准教授
Mayumi Nishikata



新潟地域看護学実習

地域の健康を支える保健福祉活動を
佐渡に暮らす人々との関わりから学ぶ

医学部保健学科看護学専攻学生の必修科目である新潟地域看護学実習。「看護の対象となる人々を病気を通して理解するのではなく生活者として捉え、その人の生活背景や地域の歴史・文化とのつながりを理解し、地域における看護職の役割を考える授業です」と担当の成田太一准教授。

以前は4年次の必修だったが、2023年度から新カリキュラムとなり2年次必修へ変更。看護職としての基礎的能力を身に付ける科目と位置づけ、地域における人々の暮らしや社会資源について学ぶ実習となった。

フィールド実習を行うのは、佐渡市の新穂地区。特徴的な自然環境や歴史文化がある

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

医学部保健学科

STUDENTS VOICE



野村美羽さん(医学部保健学科2年※取材時)

「超高齢社会が進んでいく中、生きがいを持って生きるとは人とのつながりが大切だということを肌で感じた実習でした。私も地域の方々の暮らしに寄り添い、地域に役立つ保健師になりたいと改めて思いました。また、実習をきっかけに新たに学んだ精神看護学への興味も大きくなっています。今後も新しい学びに積極的に挑戦して、医療人としての自身の将来や、人の役に立つ仕事について考えていきたいと思っています」

り、超高齢社会における保健福祉の全体像や連携状況を学ぶうえで高い教育効果を期待できる場所だ。学生は「母子保健」「成人・高齢者保健」「精神保健」の3つのグループを編成。6・7月に佐渡市の地域アセスメントや家庭訪問のロールプレイング演習などの事前学習を行い、9月に1泊2日のフィールド実習に臨む。現地では座学とは異なる対面形式で家庭訪問や地区踏査、保健医療専門職へのインタビューを行い、佐渡市で暮ら



す人たちの健康課題や保健福祉活動の知見を広げる。その後の報告会で、学生は実習の成果を報告する。

保健学科看護学専攻の学生は、看護師や保健師、助産師を目指して4年次に国家試験を受験する。「入学して2年目の早い時期に人々の暮らしを理解することやコミュニケーションのベース作りを体験する意義は大きいと思います。実習で住民や看護職に触れた学生たちが、3・4年次での専門的な学びを通して将来への夢を大きく育んでくれたらうれいです」と担当教諭の西方真弓准教授。成田准教授も「実習では人との関わりや地域の特徴を理解する楽しさを感じてもらいたいです。その体験が今後の学びにつながっていくと思います」と話した。

—小児医療宿泊施設—

ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

病気と闘う子どもと、その家族と一緒にいられますように。

ハウスの運営は100%皆様のご寄附で支えられています。
温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳細はこちら



お問い合わせ：サポーター連携推進室 TEL：025-262-6010 E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

研究
題目

マイクロパターン付き コラーゲン製材「CollaWind」

魚由来のコラーゲン製人工生体材料を開発し 口腔内の傷を早期に再生する

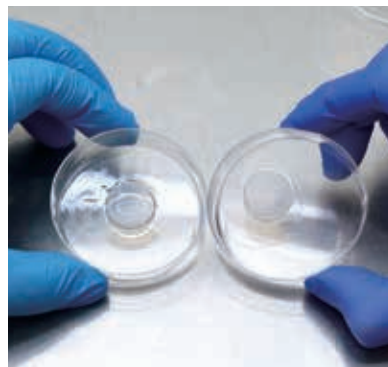
重度の歯周病をはじめとする口の中の疾患を治療する場合に行われる自家口腔粘膜移植。病変部を治すための標準的な方法だが、新たな傷が生じるという課題がある。泉健次

教授は、自家組織に替わる口腔粘膜欠損修復材の研究開発に取り組む。

「自家組織移植は、健全な組織を移植して縫い合わせることで、組織を採取した部分には当然新たな傷ができます。また、現在使用されている人工生体材料は、材質に柔軟性が乏しく、複雑な形態の口の中で扱うことが困難です。患者さんと医療従事者両者の負担を減らし、口腔内の傷をより良く治す材料の開発を進めています」

研究では他大学の研究者や民間企業とも連携を図り、材料の表面にマイクロパターン（波状構造）を付与する技術を確立。魚由来のコラーゲンを原料とした、新しい生体材料を製作した。

「ヒトの口の粘膜は、シートとマットレスを重ねたような構造でできていて、マットレスに当たる結合組織が、シートに面する部分は波状になっています。生体模倣の観点から、ヒト口腔粘膜固有の結合組織乳頭を模したマイクロパターンをコラーゲン製材の表面に付与した結果、歯肉に非常に似た組織を再現することに成功しました。また、原料には化粧品等に使われている魚（イシメダイ）のうろこを採用しています。従来の動物由来コラーゲンに比



↑コラーゲン製材「CollaWind Sheet」。一方の面(左)は平坦で水はけがよいため水が溜まるのに対し、もう一方の面(右)には波状構造が付与されているため水はけがよいため水が溜まらない。

べて安価であるほか感染症リスクも払拭できるため、安全・安心な医療の提供にもつながると考えています」

二つの大きな特長を持った、魚うろこ由来コラーゲン製材「CollaWind（コラウインド）」の基盤技術を開発させていけば様々な分野に展開していけると、泉教授は将来を見据える。

「ヒトのさまざまな組織に模したマイクロパターンを作成し、形状とサイズを最適化することで口の中だけでなく、皮膚などの傷を治す移植材の創出も期待できます。さらに、化粧品開発における研究材料としての提供や、ばんそうこう、パッドといった日用品への変換も視野に入ります。これからも歯工連携を深めて改良を重ね、世の中のニーズをくみ取りながら開発に励んでいきたいです」

ヒトへの臨床応用にはまだ越えなければならない壁はいくつも。それらを一つずつ乗り越え、口腔粘膜の再生医療の発展や患者の QOL 向上に寄与することを目指す。

研究
題目

センサ・マイクロマシン技術で 一歩先の未来を切り拓く

マクロな変化を肉眼が捉える前に 未来を予測する技術を開発

薄い板状の基材表面にナノメートルからマイクロメートルサイズの形状を作る半導体微細加工技術。スマートフォンをはじめ、自動車や家電製品などに実装され、私たちの生活を便利にしている。安部隆教授はこれらの技術を用いて、小さなセンサやマイクロマシンを作る研究を進める。マイクロマシンを作る生産装置から実際の作製工程まで全てを手掛け、世界初となるガラス・水晶や特殊金属製のセンサやマイクロマシンの生産技術も開発した。

「いかに小さくするかという研究は1970年代からありました。世界初の研究もみんながやり始めたら古い研究になる。学生には『今、面白い』と思うことより20年後に形になるものを

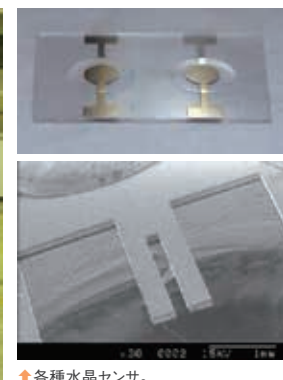
研究するように話しています」

その信念の背景には学生時代、研究に用いた市販の計測機器の性能が不十分で実験で苦労した経験がある。すでにある機器を「買う」のではなく、「世界にないものをゼロから作る」と発想を転換。世界初の装置を自分で作ることに興味を持ち、大学院修了後、東北大学の江刺正喜教授に師事。マイクロマシンを作る装置や加工技術分野の研究を始めた。

「装置や技術を作る過程で学ぶことは多く、機械を作るためには分野を超えて幅広く工学を学ぶ必要があります。小さなセンサは高感度で、市販センサでは測れない僅かな変化も計測できます。今後はただ計測するだけではなく、肉眼で捉える前に材料・構造



↑マイクロマシンを創る装置。



↑各種水晶センサ。上はTSM型振動子。下は音叉型。



↑マイクロ加工の実演例。上は佐渡島。下はチタン製マイクロスプーン。



工学部 安部 隆 教授

「Profile」博士(工学)。専門は総合工学。センサ専用水晶振動子を開発する。毎年、東京で開催される半導体製造装置・材料の国際展示会「SEMICON Japan」に研究成果を出展。

体の状態変化を診断できる水晶センサを用いて、観察対象の未来予測に貢献する技術に育てたいと思います」

安部教授の技術は、農業・食品加工では脂のりや含水量、防災対策や土壌調査、樹木や植物の健康状態モニタリング、水質・油の管理、コンクリ・モルタルの劣化度などを数値化できる。次の製品を探索する様々な企業との連携も期待される。

「新しいものや技術は新しい世代が生み出すものだと思っています。頭の中で思い描いたものを実際に形にできる人材、いわゆるスマートクリエイターの育成に力を入れています」

培ってきた研究と信念を次世代に紡いでいく。

特別なあなたに 特別な1枚 「新潟大学カード」

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き(最高3,000万円) 国内主要空港のラウンジが無料



入会受付中!

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局

電話：025-262-7891

(受付時間 平日 10:00~15:00)

E-mail: n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

志望業界、企業で働く先輩に質問したい!

会社の中の様子について知りたい!

新潟大学キャリア・就職支援オフィス

CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ!

卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください!

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています!

お問い合わせ先 新潟大学キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

URL <https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/>



↑ 高田分校西城キャンパス俯瞰（西城校舎、附属高田小学校）。昭和56年撮影。

← かつて上越市高田にあった教育学部高田分校。明治32（1899）年に開校された新潟県第二師範学校にルーツを持ち、西城校舎と本城校舎があった。写真は雪の高田分校西城校舎本館正面。昭和55年撮影。

2024年、
新潟大学は
創立75周年を
迎えます

新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所



もりた たつよし
森田龍義
新潟大学名誉教授

理学博士。専門は植物分類学。タンポポ属の種分化について研究。昭和53年教育学部講師、教育学部助教授を経て平成2年から新潟大学教授。平成18年教育人間科学部長、平成20年教育学部長を歴任。平成22年定年退職。

森田龍義名誉教授が昭和53（1978）年に教育学部講師として赴任した高田分校。在籍した生物学研究室は、大学の威厳に満ちた堂々と立派な本館と渡り廊下で繋がった木造の平屋だった。「コルタールで塗ったような廊下の板。冬は寒く夏は暑い。自分が通った小学校の校舎のように古かった」と振り返る。「私は教育学部の小学校と中学校教員養成課程の1・2年生の理科に関する科目を担当しました。東京育ちの私にとって高田の自然は非常に美しく豊かなものでした。春は見事な桜が咲き、その向こう遠くには雪をかぶった妙高山が見える。田に水が入るとキラキラと光り反射する。学生は15人ほどと少人数で、彼らを連れて野山へ植物採集によく出掛けました。新潟の学生は真面目で一生懸命。私もまだ若く、彼らとは年の離れた友人のような関係でした。オーバーボードターの就職浪人だった自分が幸運にも大学教員になった。世代交代の時代で若手教員も多く伸び伸びと過ごせた記憶があります。赴任先の建物が高いなど、全然苦になりませんでした」

高田分校は、昭和56（1981）年に廃校になり、五十嵐キャンパスに統合された。担当学生は45人と大所帯になり、植物採集に出掛ける機会は減ったが、卒業研究を指導するようになり研究者らしい生活になったという。卒業研究で30種以上の野生植物の生活史の研究に取り組んだ。高田分校時代とは違う「教師を目指す学生を最後まで指導する」という使命感と達成感を得た。「植物を専門にする研究者だった自分が教育学部の学生を指導することになり、『私には何を伝えることができるのだろうか？』と悩み、考えさせられました。学校教員には伝える力だけでなく伝える内容自体を魅力あるものに創造する力が求められます。そのために私自身が学生が面白いと感じるものを一緒に見つけ、研究的な態度や力を養う経験が必要だったのです。様々な意味で当時の学生との触れ合いは掛け替えのない時間でした。分校から五十嵐キャンパス統合の時期は私にとって第二の青春であり、『教師に必要なものとは？』という問いにつながりかけを得た3年間でした」

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイデアを綴るリレー式コラム。第30回は経済科学部です。

第30回●経済科学部「来るべき震災に備えて ―東日本大震災と関東大震災を考える―」



関東大震災100周年にあたる2023年に刊行した著書『中国・朝鮮人の関東大震災 ―共助・虐殺・独立運動―』（慶應義塾大学出版会）

本の三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生した2011年3月11日、私は留学先の中国・上海にいました。2008年9月より、ポストドクターにあたる高級進修生として復旦大学に在学していたのです。幸い新潟大学に就職が決まり、10日後に帰国する予定でした。2011年3月末、私は日本に帰国しました。成田空港に降り立って実感したのは、上海で想像していたよりも被害ははるかに深刻であったことです。当時の話を聞くと、自分が東日本大震災の圏外にいたのを強く実感します。他方で、中国人が大震災に見舞われた日本にいかなるリアクションを示したのかについては、身をもって実感することができました。この中国からみた東日本大震災については、ほとんど論じられていません。しかし、こうした非常時にこそ、中国人が抱く日本のイメージは、はっきりと浮き上がってくるといえます。

また、東日本大震災に対する中国人の受け止め方を考えた際に、比較対象として念頭に浮かんだのが、1923年9月の関東大震災でした。関東大震災から100周年にあたる2023年8月に公開した拙著『中国・朝鮮人の関東大震災―共助・虐殺・独立運動』は、こうした問題意識をきっかけに取り組んだ研究をまとめたものです。東日本大震災の約半年前、尖閣諸島（釣魚島）の領有権をめぐり、中国で大規模な反日デモが起きた。それが東日本大震災発生で一転、同情ムードに包まれました。3月13日には、中国国家地震局所属の救援隊15人が被災地入りしています。実は、関東大震災前にも旅順・大連回収運動で日中関係は険悪化していましたが、地震が発生すると中国人は官民挙げて、日本に支援の手を差し伸べました。たしかに、アダム・スミスが『道徳感情論』で指摘するように、地震における国際的共助といった利他的な精神は所詮、利己心と比べて長続きしないのかもしれない。

武藤 秀太郎
経済科学部教授

専門は東アジア近代史、社会思想史。近年は、19世紀以降の日本を含めた東アジアのインテレクチュアル・ヒストリー研究に関心があり、その研究に取り組んでいる。



「まさかの友は真の友」として発揮された共助の精神をしっかりと記憶にとどめておくべきでしょう。東日本大震災ではまた、被災者の冷静な対応、社会秩序の維持、互助の精神などが、海外メディアから称賛されました。こうした日本人の姿勢は、関東大震災に対する外国人の論評からも確認できます。もちろん、これに反するような事態もありました。ただ、この両震災における総合的な評価は、肯定的に受け止めてよいでしょう。来たるべき新たな震災でも、同様の評価が得られるよう、人間関係の維持・強化に努めてゆかねばなりません。



新たな挑戦
大きな貢献

創立 75 周年記念募金

次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、
社会に貢献する 新潟大学

卒業生の皆様をはじめ、多くの皆様のご理解とご支援を
賜いますよう心よりお願い申し上げます。

詳細はこちら



お問い合わせ

創立75周年記念事業準備室

TEL：025-262-5626

E-mail：niigata_univ.75th@adm.niigata-u.ac.jp



星野電気株式会社 代表取締役 梅澤 勝志氏(左)
末吉邦理事(右)

＊「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」

難病の子供を抱える家族の経済的・精神的な負担を少しでも軽減できるよう、病気の子供とその家族が安価で利用できる滞在施設です。

公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンと共に計画し、日本海側では初の建設となり令和4年10月にオープンしました。

詳細はこちら<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/dmh-niigata/>をご覧ください。

星野電気株式会社様からの寄附金受贈式を行いました

3月27日(水)に本学学長応接室において、星野電気株式会社様より「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」の支援を目的とした本学への寄附金受贈式が行われました。

受贈式では、星野電気株式会社 代表取締役 梅澤 勝志氏より「病気で苦しんでいる子どもたちや、そのご家族のためにぜひ役立ててほしい」との想いを込めて大学基金担当である末吉理事に目録が贈呈されました。

また、星野電気株式会社様からは、新潟大学サポーター倶楽部会員としても本学への支援を賜っております。



新潟大学サポーター倶楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。

また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (R5.12～R6.2入会・更新分)※(50音順 敬称略)

最新の会員名簿は、以下のURLからご覧いただけます。
<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

【新規】〈団体〉株式会社カミノマーケティング 株式会社ソフトクリエイトホールディングス

【更新】〈個人〉磯部 利行 駒村 繁 佐藤 等 匿名希望1名

〈団体〉アサヒアレックスホールディングス株式会社 株式会社アルコン 株式会社イーエムエス新潟 株式会社小野組
クオリティフーズ株式会社 株式会社熊谷 クロスウィル・メディカル株式会社 株式会社興和 国際ソロプチミスト新潟-西
株式会社小嶋屋総本店 三和ボーリング株式会社 CEC新潟情報サービス株式会社 株式会社シーキューブ
積水ハウス株式会社新潟支店 第一生命保険株式会社新潟支店 高倉産業株式会社 高野不動産株式会社 株式会社巴山組
株式会社ナルサワコンサルタント 一般財団法人新潟県けんこう財団 一般社団法人新潟県労働衛生医学協会
日本海エル・エヌ・ジー株式会社 日本シイエムケイ株式会社 株式会社パイオニア 株式会社ビーアールシー 藤田金属株式会社
松井建設株式会社北陸支店 三星工業株式会社 株式会社ミヤトウ野草研究所 株式会社ヨークベニマル ラミコジャパン株式会社

遺贈によるご寄附

■遺贈とは

遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々に寄附することを遺贈といいます。

この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものです。遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、サポーター連携推進室までお問い合わせください。

■相続財産によるご寄附

故人のご遺志、ご遺族の意思に沿って、相続された財産から本学へ寄附することができます。

相続税の申告期限内にご寄附をいただき、本学が発行する領収書及び財産の寄附を受けた証明書を申告の際に提出されることで、

ご寄附された財産分については非課税の承認を受けることができます。

詳しくはサポーター連携推進室までお問い合わせください。

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先 **新潟大学サポーター連携推進室** TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp
HP <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

―学生の輝く未来を共に創る― 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。

「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学学業成績優秀者奨学金」の支援を行っております。

■寄附者名簿 (R5.12～R6.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉大貫 俊二 三浦 淳 皆川 悠太 盛崎 眞治 匿名希望11名

～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。令和4年1月に創設し、「新潟大学フェロシップ支援」

「未来のライフ・イノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿 (R5.12～R6.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉石田 武裕 久保田 祐作 匿名希望5名

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (R5.12～R6.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉赤木 忠道	安達 雄治	阿部 剛	飯田 誠	飯野 隆史	五十嵐 豊	石田 武裕	井関 慶喜	伊藤 加代子
伊藤 正則	祝前 博明	岩田 喜美枝	岩田 尚志	石見 鉄夫	上杉 圭吾	牛木 辰男	江口 正樹	大嶋 泉
大島 勇人	大嶋 美香	大嶋 康義	太田 吉雄	岡崎 篤行	岡崎 健一	岡村 光展	小川 哲也	奥野 隆広
勝井 丈美	金子 淳一	上村 顕也	後藤 康志	小林 幹雄	相良 駿太	佐久間 雅義	櫻井 炳一郎	佐々木 晋
佐々木 宏幸	笹森 周	佐藤 純一	佐藤 弘恵	佐藤 正道	斎藤 美智子	讃岐 久美子	信田 庸二	島 英里
島田 彰	杉野 ゆかり	鈴木 陽子	関 隆宏	高澤 栄一	高杉 浩文	高橋 大生	高橋 俊幸	滝澤 哲也
田村 君子	塚本 恵	土田 正則	直井 孝二	長井 良二	中川 聡	長澤 正樹	西田 眞吾	野口 公聖
野澤 佳世	野村 啓	橋本 謙司	樋口 一也	樋口 邦明	廣田 巨樹	福井 直樹	福地 健郎	降旗 輝彦
増田 淳	松井 克浩	村松 正吾	盛崎 眞治	柳本 雄司	山崎 秀	山田 尚彦	横野 知江	吉田 祥太
吉原 克彦	渡邊 景亮	渡部 厚史						匿名希望125名

〈団体〉あがの市民病院 株式会社Alumnote イマクリエイト株式会社 株式会社ウィザップ カクタス・コミュニケーションズ株式会社
木山産業株式会社 一般財団法人協和会 株式会社熊谷組 株式会社コーシン コカ・コーラボラータスジャパン株式会社ベンディング新潟支店
国際ソロプチミスト新潟-西 サントリービバレッジソリューション株式会社 三和ボーリング株式会社 JA新潟厚生連柏崎総合医療センター
JA新潟厚生連いなん総合病院 JA新潟厚生連上越総合病院 JA新潟厚生連新潟医療センター JX石油開発株式会社
信越化学工業株式会社直江津工場 田中産業株式会社 栃尾ライオンズクラブ 株式会社直井ホールディングス ナミックス株式会社
新潟医療生活協同組合木戸病院 新潟県労働金庫 株式会社福田組 株式会社村尾技建 医療法人社団IUVU 山崎歯科医院
株式会社和光ベンディング 匿名希望6団体

トピックス1

新潟市立茨曾根小学校の児童からの寄附金受贈式を行いました

本学は、令和6年3月12日(火)、ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがたにて、新潟市立茨曾根小学校5年生からの寄附金受贈式を開催しました。

受贈式では、茨曾根小学校5年生11人が、地元で生産されるコメについて理解を深めるために、地域の方に支えてもらいながら自分たちで田植えや稲刈りなどを行い、収穫したコメを「いばら姫」と名付け販売した代金8万円を「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」の運営に寄付することになったことを、手作りのポスターに寸劇を交えて発表しました。

寄附金を受け取った富田善彦医歯学総合病院院長は小学生たちの価値ある学習を称えるとともに、にいがたハウスの運営に有効活用していくと述べました。

受贈式終了後、小学生たちは、ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがたの稲川ハウスマネージャーからにいがたハウス内を案内してもらい、「居心地がよさそう」、「きれい」などの声があがっていました。



Campus Information

地域に密着しながら様々な活動続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

創立75周年に寄せられたメッセージを公開しています

2024年に本学が創立75周年を迎えるにあたり、創立75周年特設サイトにて、みなさまから寄せられたあたたかいメッセージを公開しています。

メッセージは随時募集していますので、お祝いのメッセージや思い出のエピソードなど、本学にまつわるものをぜひお寄せください。

メッセージの投稿は
こちらから



新潟大学地域人材育成プログラムシンポジウムを開催しました

本学は、3月5日にアートホテル新潟駅前にて新潟大学地域人材育成プログラムシンポジウムを開催しました。

本学は、地域の産業界や地域社会のニーズを満たすオンラインも活用した地域リカレント・リスキリングプログラムを開発・実施し、地域の人材育成を通して、新潟を、あらゆる世代が活躍できる、より魅力的な地域へと発展させるための取組を推進しています。

本シンポジウムでは、本学における組織型地域人材育成に向けた共同教育講座制度の趣旨や目指す姿、ビジョンなどを紹介しました。

前半は、本学の阿部和久副学長より、新潟大学共同教育講座制度について説明の後、本

学社会連携推進機構の須藤達美特任教授及び本学医歯学系の曽根博仁教授から、各共同教育講座の取組を紹介しました。

後半は、ご来賓の文部科学省総合教育政策局教育企画調整官の西明夫様、経済産業省産業技術環境局技術振興・大学連携推進課長の野澤泰志様にもパネラーとしてご登壇いただき、「地域人材育成の方向性と今後の展開」をテーマに、今後の地域の人材育成はどうあるべきかなどについてパネルディスカッションを行いました。

本学は、今後も教育研究成果をもとに、地域との協働による人材育成に取り組み、大学の「知」を核とする地域人材育成の日本のモデルを目指します。



本学は「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択されました

本学は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が公募した「次世代研究者挑戦的研究プログラム～博士後期課程学生の挑戦を支援する～」に採択されました。

同プログラムは、大学の研究科や研究室など既存の枠組みを越えて優秀な博士後期課程学生の選抜等を行う事業統括を指名し、そのリーダーシップのもと、当該博士後期課程学生に対する様々な支援を実施・展開する大学の取組を国として支援するものです。本学では、大学院担当副学長を事業統括とした「未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えたフロントランナー育成プロジェクト(通称:新次世代プロジェクト)」を開始し、博士後期課程の全研究科(医歯学系の4年制の博士課程を含む)を対象に優秀な学生を選抜し、経済的支援・研究費支援を行うとともに、様々なキャリアパス支援に向けた取組を行います。併せて、多様な分野でイノベーションを創出する博士人材を育成することを目指します。

なお、これまでの博士後期課程学生を支援する取組「フェローシップ事業」及び「未来のライフ・イノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト」は、新次世代プロジェクトに統合されます。



新潟大学
季刊広報誌



R I K K A 2024.SPRING No.48

発行/2024(令和6)年7月
編集/新潟大学広報室
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話/025-262-7000

Home Page

<https://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail

rikka@adm.niigata-u.ac.jp



定期送付のお知らせ

季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報室までご連絡ください。

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。